

第4回 湧別川ほか減災対策協議会、渚滑川ほか減災対策協議会 議事要旨

日時：平成30年6月26日（火）14：00～16：10

会場：湧別町文化センターさざ波 多目的ホール

出席者：紋別市長、遠軽町長、湧別町副町長、滝上町長、網走地方気象台長、陸上自衛隊第25普通科連隊長、北海道警察北見方面本部警備課長、紋別地区消防組合消防長、遠軽地区広域組合消防長、北海道電力株式会社旭川水力センター遠軽土木課長、オホーツク総合振興局副局長、網走開発建設部長

《議事内容》

- (1) これまでの経緯と取組方針
- (2) 幹事会報告
- (3) 規約の改正
- (4) 取組状況のフォローアップ・評価
- (5) 平成30年度以降の取組
- (6) 今後のスケジュール(案)

《委員等からの主な意見》

【(4) 取組状況のフォローアップ・評価】

(紋別市)

- ・毎年比較的大きな規模での総合防災訓練を実施している。その中で課題が出てきている。渚滑川については資機材も着実に整備している。洪水になると渚滑川だけでなく、道河川や市内の小河川も含めて被害が大きくなっていくため、人手が必要になり、町内各地域の防災組織の確立が避難関係では重要になってきており、市としても必要性の働きかけを行っている
- ・対策本部を設置した場合に、情報が本部にきちんと伝達され、適切な対応ができるかが重要であるが、訓練のように災害はシナリオ通りにならないので懸念している。実際の災害時に情報伝達がうまくいくかが課題。
- ・渚滑川の整備については、ビジョンの取組の中で天端保護工については完了していると聞いているが、漏水対策はこれからということなので、できるだけ早く着手をお願いしたい。

(遠軽町)

- ・今までのフォローアップはよいのではないかと思う。
- ・遠軽町では、住民を参加した全体の総合訓練は2年に1回実施している。この防災訓練のほかに、4年前から図上訓練に力を入れている。実際の災害を想定して、情報が少ない中でいかに連携を取って、やっていけるかが重要と思っている。
- ・また、各関係機関の人間、現場レベルの担当者がお互いに顔を知っておく必要があり、そのような機会を作ることも必要と感じている。

(湧別町)

- ・湧別町内では、平成4年から芭露川の改修を行ってきていただいている。ポンプ、資機材、避難所の食料などについても整備してきている。訓練より前に、洪水や津波警報への実対応が先にきており、実対応からの反省点が出てきていた。
- ・避難や水害が多い地域であるため、各地域で自主防災組織が設置されており、防災

訓練は毎年町内のどこかで自主的、合同で実施してきている。

- ・防災行政無線が繋がらないということが生じていたため、解消するための整備検討を進めている。また、現在ハザードマップの作り替えを行っている。
- ・湧別川の河口の地域は、H20年くらいまで無堤地区があったため、湧別川が氾濫することにより水の勢いを弱めていた。堤防が出来たため全て河口から水が流れるようになり、H28年の台風時には湧別川の河口部の河岸が侵食され、オホーツク海とつながった。堤防が出来た後の出水の時、どうなるかが心配である。
- ・また、河口が埋まってしまうが、泥石流によるホタテの漁場の被害について危惧している。

(滝上町)

- ・滝上町は、近年、河川洪水や大規模な災害の発生が無い。今後、河川災害への対応を進めていく必要を感じているところ。集中豪雨による停電にも気を付けている。
- ・町内には、渚滑川、シュウトルマップ川が流れているが水位計が設置されているが囲われているため、外から見る事が出来ない。また、サクルー川については水位計が設置されていない。そのため、水位が上がるとどこが危ないのかが把握できない。
- ・浸水想定範囲の把握について協力いただきたい。また、その後の避難計画の立案についても苦慮している。マップ作成の時に考えなければならないと思う。資機材についても同様に考えていかなければならない。
- ・避難情報や発信体制の強化として、昨年から登録制メールの検討を行い、来月から運用開始の予定。
- ・災害に慣れていない地域。自主防災組織で対応したいが、町内会役員の高齢化も問題と考えている。仕組みづくりが大切。

(紋別地区消防組合)

- ・人命救助が大事だと考えている。
- ・紋別市と連携して、避難勧告時には消防の吹鳴のプログラムを改良するなど取り組んでいる。重複しない避難ルートを確立している。昨年、総合防災訓練に参加し、川にドライスーツを着て人命救助をする訓練を実施している。
- ・7月1日(日)に5市町村の連合消防演習が予定されており、40m級のはしご車を活用し、中州に取り残された人を救助する訓練を行う予定。
- ・装備、資機材の整備に努めていきたい。今後、新たな救助手法の訓練を行っていきたい。

(遠軽地区広域組合)

- ・市町村、関係機関が保有している資機材の情報を共有できたのは有意義であった。
- ・水防に関する資機材を順次整備し、災害に対応していきたい。
- ・情報の収集、分析、指示体制、これらが非常に重要であり、引き続き情報交換の強化を図っていただきたい。
- ・職員、団員の情報伝達体制の訓練の中に組み入れていきたい。

(北海道電力)

- ・湧別川のダムと取水堰を管理している。放流するときには、ルールに則って管理している。発電所を含めて機会があれば紹介したいと考えている。また、遠軽町の図

上訓練への参加を含め、積極的に参加していきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・住民の避難誘導、交通整理をすることになる。災害時には情報をいち早く集約しなければならぬと考えている。消防などと情報共有するシステム、体制をつくっていきたい。
- ・訓練には、地元を含めて積極的に参加していきたい。
- ・気象台から警察署に職員を派遣してもらい、職員の災害に関する知識の習得に努めている。
- ・今後は、交番の広報誌に防災情報を掲載し各戸に配布する等、住民の防災に関する意識を高めてもらえるような活動を展開していきたい。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・漏れの無い減災対策の取組を行ってきているが、これらをどう実行していくかが大事。防災訓練などへいかに反映し、新たな問題を発見して、どのように改善していくかというところに尽きるのではないか。
- ・ハード対策、ソフト対策でまずは災害を極力少なくするというアプローチが1つ。
- ・消防や警察と同様であるが、災害が発生してからの人命救助などが大きな役割になるかと思う。特に、住民参加型の意識付けのための防災訓練や、遠軽町のDIGではある程度判断を求める訓練にしてみても、問題点を新たに発見していくやり方で引き続きやっていけばよいのではないか。
- ・中央で統合防災訓練をやっている。遠軽からは参加しないが、中央で各機関と連携して首都直下型地震を想定し、図上訓練を実施している。
- ・関係機関との訓練の機会を通じて顔の見える関係を築くことに加え、訓練の中身をよりよいものにしていけばよいのではないか。

(網走地方気象台)

- ・危険度の情報をわかりやすくする取組を実施している。また、講習会、防災学習など出前講座も実施しており、また、各警察署に出向いた講習会も実施している。訓練としては、湧別町の幼稚園、高校の訓練に協力している。
- ・担当者レベルでの顔の見える関係づくりになるが、管内市町村をまわり、防災担当者の方々から懸案事項がないか聞き取りを行った。

(オホーツク総合振興局)

- ・平成28年の一連の台風災害を鑑み、河道内樹木伐採、堆積土砂の除去について、「河道内樹木伐採などの河川維持管理のあり方」を平成29年3月に作成した。
- ・平成29年10月には、河川ごとに実施計画を作成し、優先度の考え方を踏まえて、計画的な実施により、適切な維持管理に取り組んでいる。
- ・平成28年の豪雨災害以降、市町村の災害対策本部に振興局の職員を派遣する、いわゆるリエゾンとして職員を派遣している。派遣したリエゾンが被害状況や市町村の要望、自ら情報を収集して振興局に連絡することによって、いち早く必要な支援等が実施できるよう引き続いて取り組んでいきたい。
- ・災害時に何よりも重要なことは、関係機関に密に情報を共有することにより危機管理、防災対応を行っていくことと考えている。本協議会を踏まえ引き続き情報共有及び連絡強化について実施していきたいので協力願いたい。

【(5) 平成 30 年度以降の取組】

(紋別市)

- ・今年度、渚滑川右岸の樋門の排水のため排水ポンプ 4 台と電源車 1 台を増強する予定である。車両整備が進んでおり、現在、排水ポンプ車 2 台、照明車 2 台、電源車が合計 2 台、道管理の藻別川の樋門でも排水ポンプを設置してきているので、迅速に対応できると思う。
- ・また、対策本部で情報が錯綜していたため一本化して情報が輻輳して無駄な動きがしないように進めている。
- ・リエゾンの派遣はありがたいが、対策本部が出来た時に、こちらから要請するものなのか、自発的にきてもらえるのかどうかお聞きしたい。

(事務局：北海道開発局)

- ・開発局の場合は、水位が上がるのが予想されるような場合には、空振り覚悟で要請をもらう前に事前に職員を配置し派遣できる準備をとっている。
- ・災害対策本部が立ち上がった時点で直ちに派遣できるようにしている。ほとんどがプッシュの形で派遣させてもらうことで考えている。

(オホーツク総合振興局)

- ・振興局も、開発局と同様に、自発的な判断に基づいて派遣できるような仕組みにしている。時間がかからないよう、なるべく近くの事務所からリエゾンを派遣できるようにしている。

(陸上自衛隊第 2 5 普通科連隊)

- ・自衛隊も同じである。自衛隊もプッシュ型で派遣している。
- ・派遣前には連絡をしており、派遣規模を調整し、情報共有の場をつくりたい。
- ・他機関と連携しながら対応していきたい。

(遠軽町)

- ・訓練を充実していくつもりである。住民は避難しないということを頭に入れて対応する必要がある。

(湧別町)

- ・災害の発生する場所は、芭露、湧別、開盛の 3 地区があるが、連絡体制がとりにくいため、情報共有する体制を整えていきたい。
- ・要支援者台帳の整備を引き続き進めたい。
- ・水害が多い町なので日頃からの訓練を充実していきたい。地域を含めてやっていくので協力願いたい。

(滝上町)

- ・災害はいつ起きるか分からないということを周知していくためにも防災訓練は必要と認識。
- ・9月に北海道と関係機関の協力を得ながら訓練を実施するので協力してほしい。
- ・サクルー川は渚滑川本川よりも水位が上がるのが早く、目安になる水位計が無い状況のため、水位計の設置が可能なのか見通しを教えてください。
- ・また、職員向けの災害対応マニュアル作成や初動体制のあり方等、具体的なものを

策定したい。

(事務局：オホーツク総合振興局)

- ・北海道では30～32年にかけて危機管理型水位計の設置を考えている。今後協議して設置していきたいと考えている。

(紋別地区消防組合)

- ・30、31年で消防団員のライフジャケットを110着準備する予定である。また資機材は計画的に整備を進めたい。
- ・避難訓練や救急の講習会の場を活用して住民の防災に対する意識付けを行いたい。

(遠軽地区広域組合)

- ・早急に避難させるには、要配慮者利用施設の避難確保計画と消防計画の連携が必要だと考えている。
- ・避難確保計画はどこの機関（市町村なのか、道なのか）が点検をするのか確認したい。
- ・また、消防計画と避難確保計画の連携はどのようにしていけばよいのか確認したい。
- ・要配慮者利用施設のみならずアパートやマンションに住んでいる社会的弱者もいる中で、消防職員や消防団員で救助活動が困難なこともあるため、民生委員など地域の方々の応援も非常に大事だと思うので、これについても盛り込んでいただきたい。

(北海道電力)

- ・決められたルールに則ってダム、堰を確実に運用していくことが大事。
- ・訓練に参加し、協力していきたい。

(北海道警察北見方面本部)

- ・災害広報が警察にはあるが、今後も継続して実施していく。また、オホーツク地域は外国人実習生が多いので、防犯を含めた災害広報についても取り組んでいきたい。
- ・同じ地図を活用することにより情報共有の一元化が図られれば、より迅速な対応がとれる。

(陸上自衛隊第25普通科連隊)

- ・この計画で進めて問題ない。地図情報の共有については訓練を通じて実際に使用し、問題点を見い出して、より良いものにしていければと思う。

(網走地方気象台)

- ・各市町村担当者との打合せや出前講座については、引き続き実施していく。
- ・6月20日から、降水短時間予報が6時間先までから15時間先までに延長された。台風等により夜間から明け方にどこで大雨となる見込みかについて、夕方の時点で把握できるようになるため、防災対策に利用していただきたい。

(オホーツク総合振興局)

- ・道庁危機対策課に自衛隊OBを採用し、各市町村で実施する防災訓練の企画立案や運営の手伝いを行っている。今年度は湧別町と滝上町で陸上自衛隊OBが訓練を支援する予定である。

- ・ 地域防災マスター認定講習会を開催し、災害時に地域住民のリーダーとなる方々の育成に取り組んでいる。

以上